

福岡大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である福岡大学病院、専門研修連携施設 A の福岡赤十字病院、九州がんセンター、唐津赤十字病院、福岡市立こども病院、原三信病院、中頭病院、北九州市立医療センター、専門研修連携施設 B の福岡大学筑紫病院、福岡東医療センター、白十字病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

本研修プログラムでは、心臓外科手術、外傷手術、肺移植手術の他、小児専門病院での研修が可能である。末梢神経ブロックの症例も豊富に経験できる。また、術後痛の治療、ペインクリニック、緩和医療、集中治療など麻酔に関連する各分野での幅広い研修を提供している。ほとんどの関連施設が福岡市近郊にあり、長時間の通勤や転居の必要がなく、子育てをしながらの研修も可能なプログラムである。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- ・ 研修の前半2年間のうち1年，後半2年間のうち最低1年は，福岡大学病院で研修を行う。(ただし、中頭病院で研修し必要症例数を経験できる場合は、4年間のうち最低6か月福岡大学病院でペインクリニック、集中治療の研修を行う。)
- ・ 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する。
- ・ 地域医療の維持のため，最低でも3ヶ月以上は地域医療支援病院である福岡大学筑紫病院、福岡東医療センター、唐津赤十字病院、中頭病院で研修を行う。

研修実施計画例

	A	B	C	D
初年度 前期	福岡大学病院	研修連携施設	研修連携施設	福岡大学病院
初年度 後期	研修連携施設	福岡大学病院	福岡大学病院	研修連携施設
2年度 前期	福岡大学病院	福岡大学病院	福岡大学病院	研修連携施設
2年度 後期	研修連携施設	研修連携施設	研修連携施設	福岡大学病院
3年度 前期	福岡大学病院	研修連携施設	研修連携施設	福岡大学病院
3年度 後期	研修連携施設	福岡大学病院	福岡大学病院	研修連携施設
4年度 前期	福岡市立 こども病院	福岡大学病院	福岡大学病院	研修連携施設
4年度 後期	福岡大学病院	福岡市立 こども病院	研修連携施設	福岡大学病院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室 症例検討会 (月2回)	休み
午後	手術室	手術室	手術室	当直明け	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：29,908症例

本研修プログラム全体における総指導医数：29人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	559症例
帝王切開術の麻酔	664症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	252症例
胸部外科手術の麻酔	979 症例
脳神経外科手術の麻酔	624症例

① 専門研修基幹施設

福岡大学病院

研修プログラム統括責任者：山浦 健

専門研修指導医：山浦 健 (麻酔、集中治療)

重松 研二 (麻酔、集中治療)

廣田 一紀 (麻酔、ペインクリニック、緩和医療)

若崎 るみ枝 (麻酔)

平井 孝直 (麻酔)

柴田 志保 (麻酔、ペインクリニック)

岩下 耕平 (麻酔)

専門医：安部 伸太郎 (麻酔)

佐藤 聖子 (麻酔)

中森 絵里砂 (麻酔)

富永 健二 (麻酔)

大脇 涼子 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：92

特徴：ほぼすべての科の手術症例のほか、肺移植、術後鎮痛、外科系集中治療、ペインクリニック、緩和ケアの研修ができる。各種講習会、研修会を定期的を開催しており、参加して様々な資格・認定を取得することができる。

麻酔科管理症例数 6,634症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	386症例
帝王切開術の麻酔	243症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	126 症例
胸部外科手術の麻酔	251 症例
脳神経外科手術の麻酔	230症例

② 専門研修連携施設A

日本赤十字社福岡赤十字病院

研修実施責任者：生野 慎二郎

専門研修指導医：生野 慎二郎（麻酔）

江口 明（麻酔）

迎 雅彦（麻酔）

堀江 利彰（麻酔、集中治療）

専門医：津田 幸毅（麻酔）

秋吉 留美子（麻酔）

西川 文（麻酔）

麻酔科認定病院番号：243

特徴：帝王切開術、心臓血管手術、胸部外科手術、脳神経外科手術の症例数は週に1例以上あり、帝王切開術は特に多い。全身麻酔を基本に、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、神経ブロックを併用した麻酔管理を行っている。近年は麻酔困難症例に対して超音波ガイド下の神経ブロックを積極的に行っている。腎センターが併設されており、透析患者の麻酔管理も多い。

麻酔科管理症例数 3,150症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	32症例

帝王切開術の麻酔	277症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	60 症例
胸部外科手術の麻酔	83 症例
脳神経外科手術の麻酔	71症例

③ 専門研修連携施設A

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

研修実施責任者：小河原 利帆子

専門研修指導医：小河原 利帆子 (麻酔)

栗原 雄二郎 (麻酔)

池田 真由美 (麻酔)

秋吉 浩美 (麻酔)

専門医：松崎 明子 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：774

特徴：がん専門病院であり、進行癌に対する複数科合同手術の麻酔が経験できる。

頭頸科領域悪性腫瘍手術に対する腫瘍切除、遊離空腸皮弁による再建術、また下部消化管進行癌に対する泌尿器科または婦人科合同の骨盤内臓全摘出術などがある。

食道切除再建術を含む分離肺換気症例も多い。

麻酔科管理症例数 1,885症例

	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	1症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0症例
胸部外科手術の麻酔	277 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

④ 専門研修連携施設A

日本赤十字社唐津赤十字病院

研修実施責任者：検見崎 裕

専門研修指導医：検見崎 裕 (麻酔)

白武 孝久 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：574

特徴：地域医療の中核を担う病院であり、様々な症例が多い。

麻酔科管理症例数 1,416症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	6症例
帝王切開術の麻酔	72症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	70 症例
脳神経外科手術の麻酔	56症例

⑤ 専門研修連携施設A

地方独立行政法人福岡市立病院機構福岡市立こども病院

研修実施責任者：水野 圭一郎

専門研修指導医：水野 圭一郎（小児麻酔）

泉 薫（小児麻酔）

住吉 理絵子（小児麻酔）

自見 宣郎（小児麻酔）

専門医：指宿 佳代子（小児麻酔）

野中 崇広（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：205（1980年認定）

特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月30～50例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸管理の実践的な研修が可能。外科・整形外科・泌尿器科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛管理にも力を入れており、硬膜外鎮痛やPCAなどを行っている。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

麻酔科管理症例数 2,679症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	50症例
帝王切開術の麻酔	20症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50 症例

胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

⑥ 専門研修連携施設A

原三信病院

研修実施責任者：香取 清

専門研修指導医：下澤 浩基（麻酔）

渡邊 隆郁（麻酔）

香取 清（麻酔）

平井 加奈（麻酔）

専門医：丸谷 恵子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1684

特徴：脊髄くも膜下麻酔や神経ブロックで管理する症例（泌尿器のTUR、消化器外科のヘルニア）が多く、短期間で数多くの症例を集中的に経験出来る。手術室以外での麻酔管理（前立腺癌の密封小線源治療）がある。

麻酔科管理症例数 3,186症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	41 症例
脳神経外科手術の麻酔	35症例

⑦ 専門研修連携施設A

社会医療法人敬愛会中頭病院

研修実施責任者：上川 務恵

専門研修指導医：上川 務恵（麻酔）

花城 亜子（麻酔）

高橋 和成（麻酔）

専門医：幾世橋 美由紀（麻酔）

丸山 大介（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1007

特徴：病床数336床の総合病院で、脳外科、心臓外科、呼吸器外科、産婦人科、小児症例など多岐にわたる症例を経験することができる。緊急手術も担当し、急性期の臨床麻酔が勉強できる。指導体制が整っていて、研修に専念できる。

麻酔科管理症例:2570症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	18症例
帝王切開術の麻酔	27症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	16 症例
胸部外科手術の麻酔	27 症例
脳神経外科手術の麻酔	8 症例

⑧ 専門研修連携施設A

北九州市立医療センター

研修実施責任者：眞鍋 治彦

専門研修指導医：眞鍋 治彦（麻酔、ペインクリニック）

久米 克介（麻酔、ペインクリニック）

神代 正臣（麻酔、緩和）

加藤 治子（麻酔、集中治療）

齋川 仁子（麻酔）

平森 朋子（麻酔）

松山 宗子（麻酔）

専門医：武藤 官大（麻酔、災害医療）

武藤 佑理（麻酔、ペインクリニック）

茗荷 良則（麻酔）

豊永 庸祐（麻酔）

麻酔科認定病院番号：316

特徴：北九州市立医療センターでは、対象患者は、極小未熟児から超高齢者まで多岐にわたります。一般外科では消化管手術の多く腹腔鏡下に施行され、麻酔管理の重要性を学びます。総合周産期母子医療センターを有しており、超緊急を含め産科の急患も多く、また出生直後の新生児外科症例を経験します。年間200例あまりの開胸術の麻酔管理を経験できます。整形外科手術では超音波ガイド下神経ブロックを全身麻酔に併用しています。集中治療部は、手術部に隣り合わせて配置され、呼吸・循環不全患者、術後患者

の管理を麻酔管理に連続して行います。麻酔科医が中心となってD-MATを編成し救急災害に備えています。痛み治療の分野では、帯状疱疹痛・疱疹後神経痛、三叉神経痛、頸肩腕痛、腰下肢痛、頭痛（頭痛専門医外来）、複合性局所疼痛症候群、がんの痛みなどの急性・慢性の痛みに対し、神経ブロック、薬物療法、理学療法などの利点を組み合わせた治療を学ぶことができます（ペインクリニック学会指定研修施設）。緩和ケア（がん治療支援）チームの活動の中心となっています。

麻酔科管理症例:3,457症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	25症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	25 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

⑨専門研修連携施設B

福岡大学筑紫病院

研修実施責任者：平田 和彦

専門研修指導医：平田 和彦（麻酔）

三浦 玲子（麻酔）

専門医：原賀 勇壮（麻酔）

木藤 澄（麻酔）

麻酔科認定病院番号：398

特徴：外科：炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の手術症例が多い。整形外科：肩の手術症例が多く、超音波ガイド下に持続腕神経叢ブロックを施行する症例が多い。脳神経外科：脳血管内手術症例が多い。

麻酔科管理症例:2218症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	30症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例

胸部外科手術の麻酔	88 症例
脳神経外科手術の麻酔	154症例

⑩専門研修連携施設B

独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター

研修実施責任者：矢鳴 智明

専門研修指導医：矢鳴 智明（麻酔）

石田 美紀（麻酔）

麻酔科認定病院番号：654

特徴：呼吸器外科手術が多い。

麻酔科管理症例：1436症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	11症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	167 症例
脳神経外科手術の麻酔	23症例

⑪専門研修連携施設B

白十字病院

研修実施責任者：楠本 剛

専門研修指導医：楠本 剛（麻酔）

水城 透（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1140

特徴：整形外科・泌尿器科の手術症例数が多く、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、伝達麻酔を行う症例数が豊富である。腹部消化器外科手術の症例数が多い。

麻酔科管理症例：1277症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例

心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	47症例

5. 募集定員

11名

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2017年9月頃）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、福岡大学病院麻酔科専門研修プログラム website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

福岡大学病院麻酔科

重松 研二

福岡県福岡市城南区七隈7-4 5-1

TEL 092-801-1011

E-mail kshige@fukuoka-u.ac.jp

Website <http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>

<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/anesthe/index-j.htm>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修4年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての福岡大学筑紫病院、唐津赤十字病院、福岡東医療センター、中頭病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。